

もくじ

1. はじめに	4
1-1. ITF Protector について	4
1-2. 動作環境	4
2. ITF Protector の動作を設定する	5
2-1. ITF Protector 環境設定画面	5
2-2. 環境設定を行う - [一般] タブ	6
2-3. 環境設定を行う - [イメージ変換] タブ	7
2-4. 環境設定を行う - [セキュリティ] タブ	10
2-5. 環境設定を行う - [動作設定] タブ	12
2-6. 環境設定を行う - [バージョン情報] タブ	14
3. インターネット接続環境を設定する	15
4. 用紙設定を行う	16
5. 仮想プリンタの追加・削除を行う	18
6. ITFファイルを作成する	20
6-1. 仮想プリンタからITFファイルを作成する	20
6-2. ファイルを開かずにITFファイルを作成する	21
6-3. ITF Protector ITFファイル設定画面	21
6-4. ITFファイルの設定を行う - [一般] タブ	22
6-5. ITFファイルの設定を行う - [イメージ変換] タブ	23
6-6. ITFファイルの設定を行う - [セキュリティ] タブ	28
6-7. ヘルプを見る - [バージョン情報] タブ	30
6-8. ITFファイルを出力する	31
7. ITFファイル作成時の設定をテンプレート (雛形) 化する	32
7-1. テンプレート管理画面	32
7-2. テンプレートを使用する	32
7-3. テンプレートを保存する	33
7-4. テンプレートの名前を変更する/テンプレートを削除する	33
7-5. グループを編集する	34
7-6. テンプレートを移動する	34
8. ITF Protector をバージョンアップする	35

1. はじめに

この度は、弊社製品「ITF Protector」をお買い上げいただきまして、誠に有難うございます。

ご使用いただく前に、本書をよくお読みいただき、製品を正しくお使いください。

また、本書はいつでもご覧いただけるよう、保管しておいてください。

1-1. ITF Protector について

「ITF Protector」は、ITF形式ファイルを作成する、アプリケーションです。

ITF形式とは、知的財産権を守るために開発された、高セキュリティなドキュメントファイルです。

セキュリティの強度は、ITFファイルの作成者により、一方的に指定できます。

従って、閲覧者はその範囲内でしか、ドキュメントを扱えません。

また、ITFファイルは、閲覧専用のアプリケーション「ITF Viewer」以外では閲覧できませんので、さらに高いセキュリティを維持することができます。

1-2. 動作環境

■対応OS

Windows 10 (32bit/64bit), Windows 8.1 (32bit/64bit), Windows 8 (32bit/64bit),
Windows 7 (32bit/64bit), Windows Vista (32bit)

■メモリ

512MB以上推奨

■空ディスク容量

5MB以上推奨

※作業容量は別途必要。

必要容量は、用紙サイズ・解像度・ページ数により変化します。

解像度(dpi)	必要容量
300 (既定値)	約30MB
200	約15MB

■その他、制約事項など

- 次の場合に、インターネットへの接続が必要です。
 1. ライセンス認証
 2. NETセキュリティを使用した、ITFファイルの作成時
- ITF作成・閲覧時の速度は、お使いのPCのCPU、メモリに大きく影響されます。より高速な動作をご希望の場合は、これらの性能をアップしてください。
- ITF閲覧の際、一時的に圧縮前と同等の作業容量が必要になります。高解像度の大幅図面などを閲覧の際は、ディスクの空き容量にご注意ください。
- 64bitのOS上では、32bit互換モード (wow64) で動作します。
- 本製品のインストール・アンインストール、及び一部機能のご利用には、コンピュータの管理者権限でのログオンが必要です。

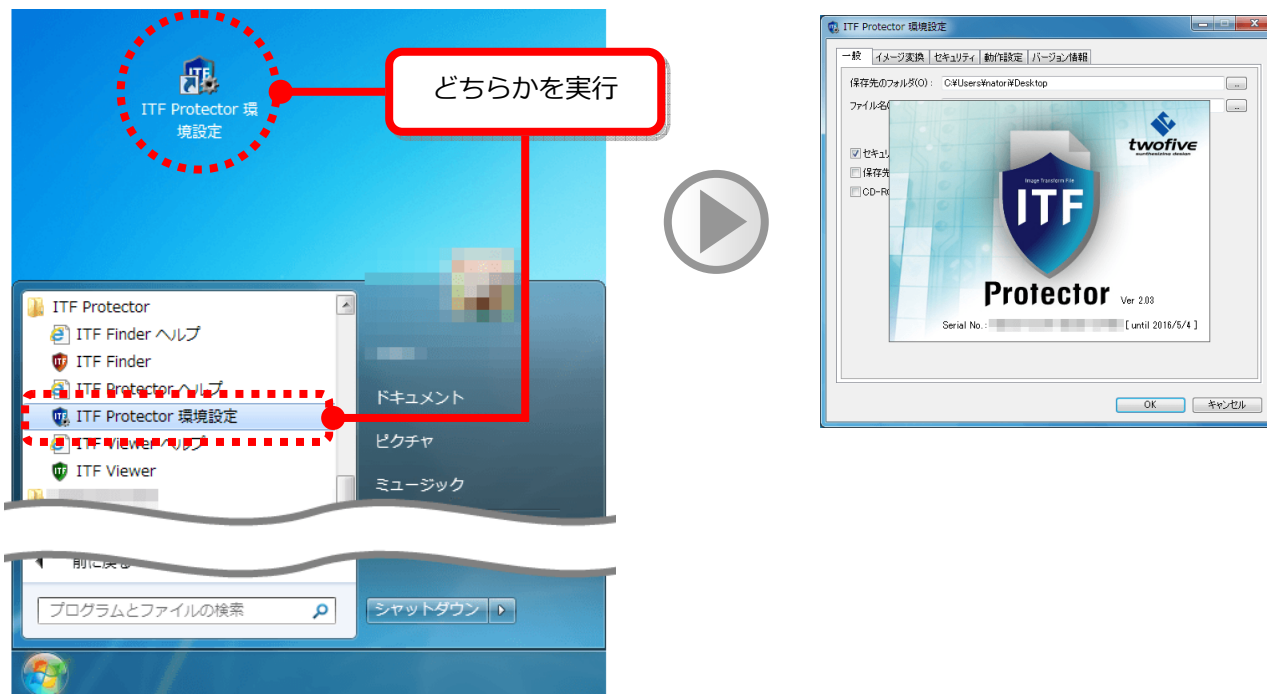
2. ITF Protector の動作を設定する

ITFファイル作成時の動作を、変更することができます。

Windows のプログラムメニューから、[ITF Protector 環境設定] を選択してください。

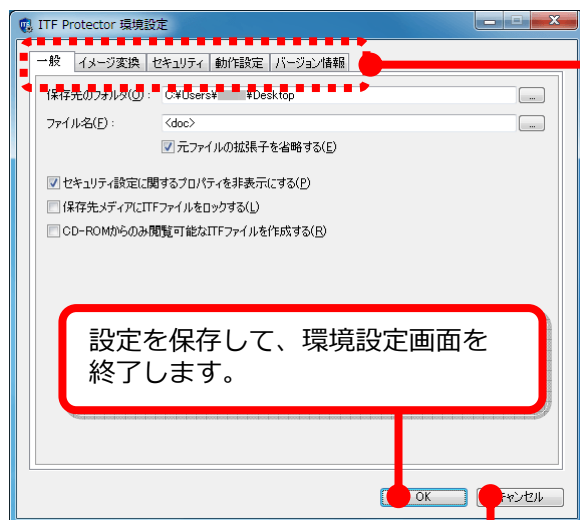
また、インストール時にデスクトップにアイコンを作成するよう指定した場合は、デスクトップ上のアイコンをダブルクリックしてください。

環境設定画面が起動します。



2-1. ITF Protector 環境設定画面

この画面では、ITF Protector の動作設定を行います。



設定項目カテゴリータブ

各設定項目は、カテゴリー毎に分類されています。各タブをクリックすると、タブに対応した項目の設定ページに切り替わります。

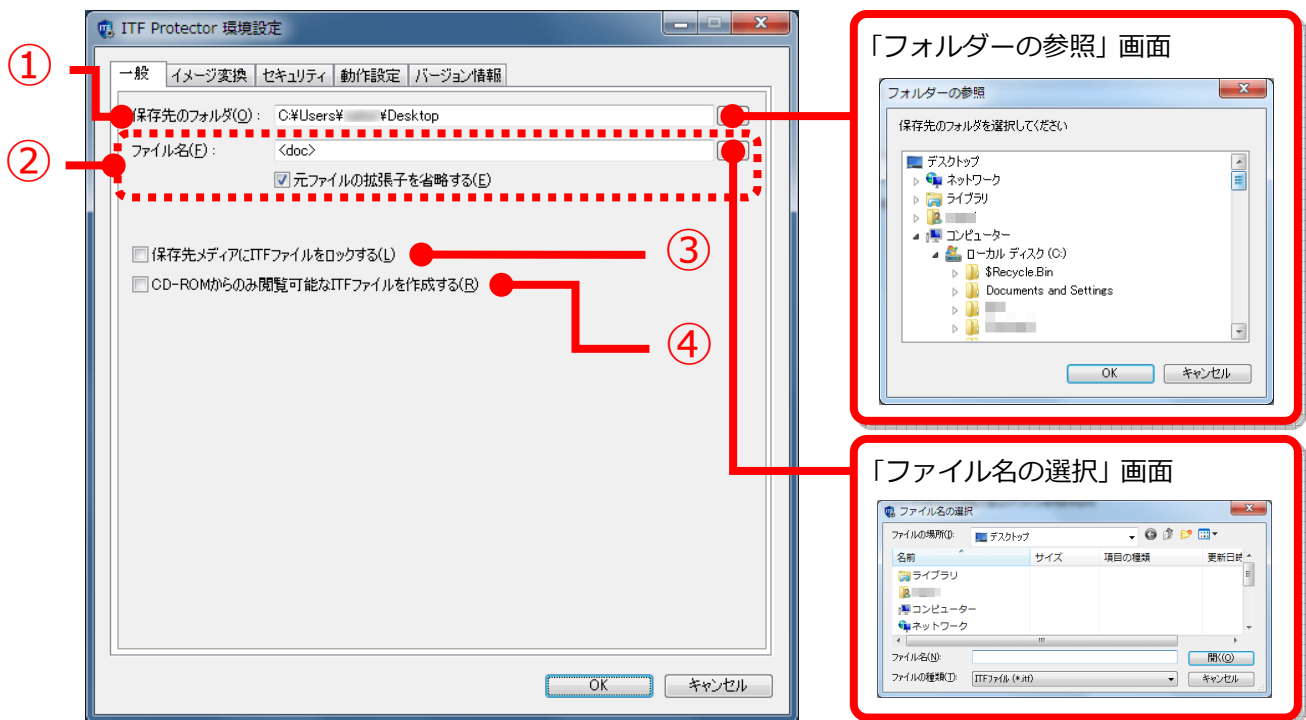
- [一般] タブ
ファイルの作成場所や、ファイル名についての設定を行います。(→P.6)
- [イメージ変換] タブ
画像変換処理についての設定を行います。(→P.7)
- [セキュリティ] タブ
ファイルのセキュリティについての設定を行います。(→P.10)
- [動作設定] タブ
ITF Protector の動作についての設定を行います。(→P.12)
- [バージョン情報] タブ
ITF Protector のバージョン情報を表示します。(→P.14)

2-2. 環境設定を行う - [一般] タブ

[一般] タブをクリックすると、下の画面が表示されます。

この画面では、ITFファイル作成時のファイル出力に関する初期値を設定します。

解説を参考に、各項目を設定してください。



① ITFファイルの保存先を指定します。

[...] ボタンをクリックして、「フォルダーの参照」画面から選択入力することもできます。

② ITFファイルの名前を、任意に指定します。

ファイル名には、次の置換文字列を使用することもできます。

- <ymd> ファイルの作成日付 (年月日) に置換されます。
- <hms> ファイルの作成時刻 (時分秒) に置換されます。
- <doc> 元データのファイル名に置換されます。
「元ファイルの拡張子を省略する」にチェックを入れると、拡張子を取り除いた名称で置換されます。

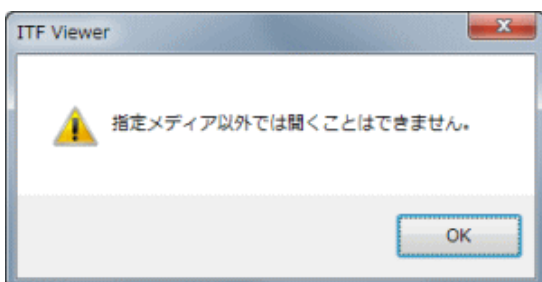
■置換文字列の使用例

下の設定の場合は、「あいう20150401えお」となります。(※2015年4月1日に作成時)

ファイル名(E): あいう<ymd>えお

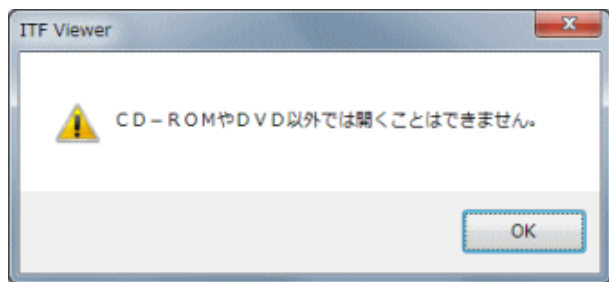
③ ここにチェックを入れて作成したITFファイルは、作成した出力先媒体 (ハードディスクやUSBメモリ) の外では、閲覧できなくなります。

※この機能は、④の「CD-ROMからのみ閲覧可能なITFファイルを作成する」との併用はできません。



- ④ ここにチェックを入れて作成したITFファイルは、CD-R/RW、またはDVD-R/RWに記録された状態でないと閲覧できなくなります。

※この機能は、NETセキュリティ (→P.11) との併用が必須です。

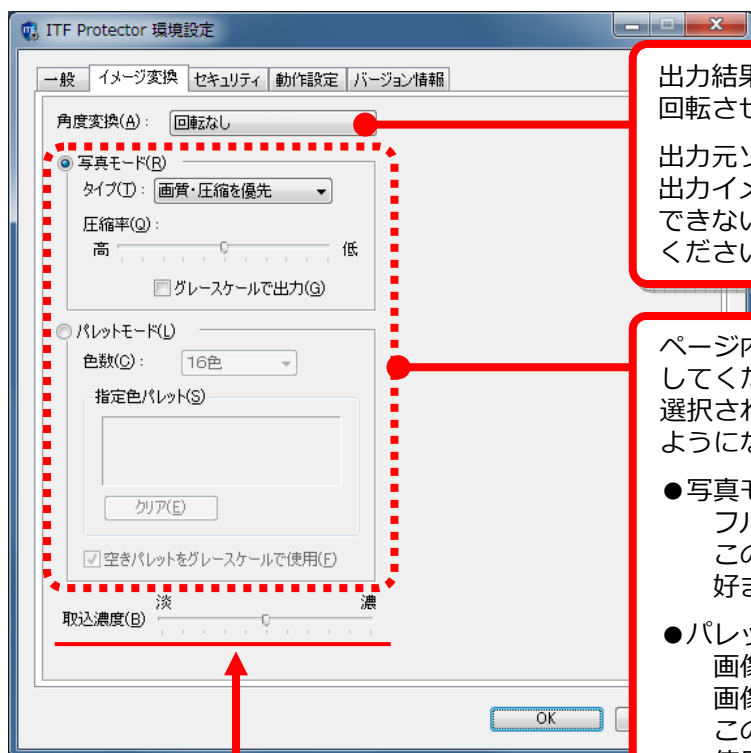


2-3. 環境設定を行う - [イメージ変換] タブ

[イメージ変換] タブをクリックすると、下の画面が表示されます。

この画面では、ITFファイル作成時のイメージ変換に関する初期値を設定します。

解説を参考に、各項目を設定してください。



出力結果を、指定の角度で回転させます。



出力元ソフトウェア側で、出力イメージの縦横指定ができない場合に、ご利用ください。

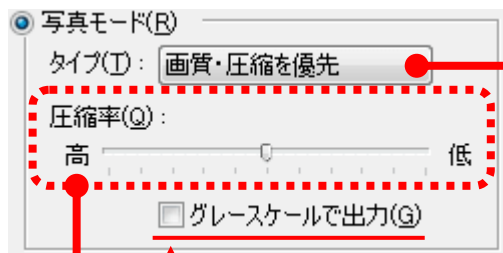
ページ内の画像データの特徴に合わせて、モードを選択してください。選択されたモードに付随する設定項目が、操作できるようになります。

- 写真モード
フルカラーで圧縮します。
このモードは、写真などの減色されることが好ましくないデータに適しています。
- パレットモード
画像内で使用する色を指定して減色することで、画像を圧縮します。
このモードは、文章や設計図、グラフ資料などの使用色数の少ないデータに適しています。

印刷データ、及び画像取り込み時の、色の濃淡を指定します。

色調調整が必要な原稿データを扱うことが多い場合に、ご利用ください。

■写真モードを選択した場合の操作



変換タイプを指定します。

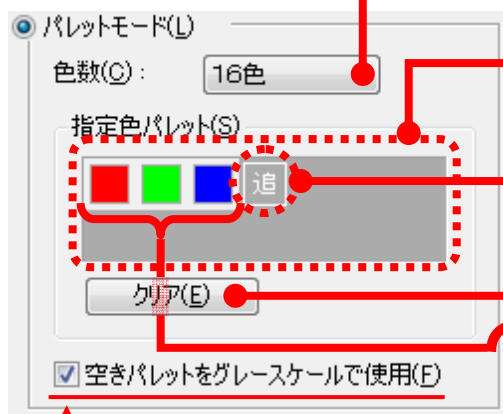
- 画質・圧縮を優先
元画像にもよりますが、概ね「変換速度を優先」タイプより高圧縮なITFファイルが作成できます。また、写真やコントラスト差の高い書類は、より美しく変換することができます。
- 変換速度を優先
圧縮率を上げるほどブロックノイズが発生し易くなりますが、コントラスト差の低いグラフィックデータなどの再現性は高くなります。

画像の圧縮率を指定します。

つまみを左に移動させるほど、データ容量は圧縮されますが、その分画質は劣化します。

ここにチェックを入れると、画像を256階調のモノクロ画像に変換します。元画像がカラーの場合は、さらにデータ容量を節約できます。

■パレットモードを選択した場合の操作



画像内で使用する色数を設定します。

「モノクロ」を指定した場合、これ以降の項目は設定不能なので、操作できなくなります。



パレット。画像内で使用する色を表示します。

追加ボタン。

画像内で使用する色を、パレットに追加します。白と黒は必ず使用するので、実際に追加できる色は [色数] で指定した色数より2色分少なくなります。

色ボタン。パレットに登録された色を表します。

パレットを消去します。

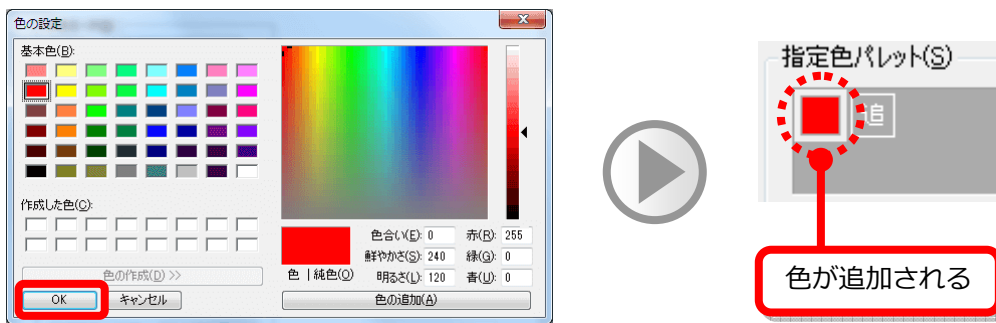
ここにチェックを入れると、余ったパレットをグレースケールに使用します。

例えば [色数] に16色を指定したが、パレットには4色しか登録しなかった場合、余った12色分のパレットは、グレースケールに使用されます。

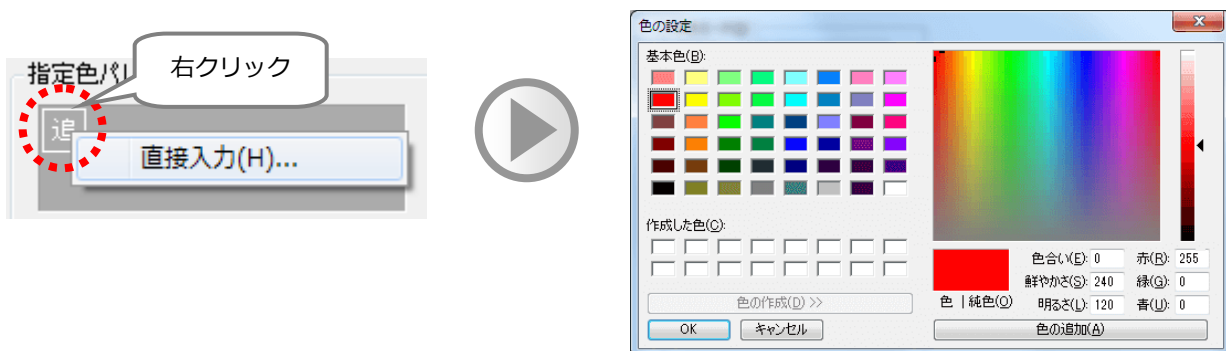
■パレットに色を追加する

追加ボタンをクリックすると、「色の指定」画面が表示されます。

「色の指定」画面上で、登録したい色を選択して [OK] ボタンをクリックすると、パレットに色が追加されます。

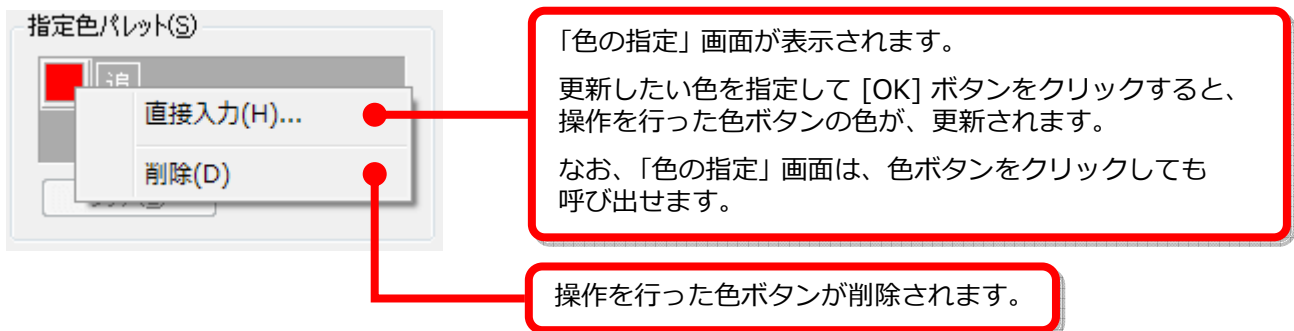


なお、「色の指定」画面は、追加ボタンを右クリックすると表示される、ポップアップメニューの「直接入力」を選択しても、呼び出すことができます。



■パレットの色を変更/削除する

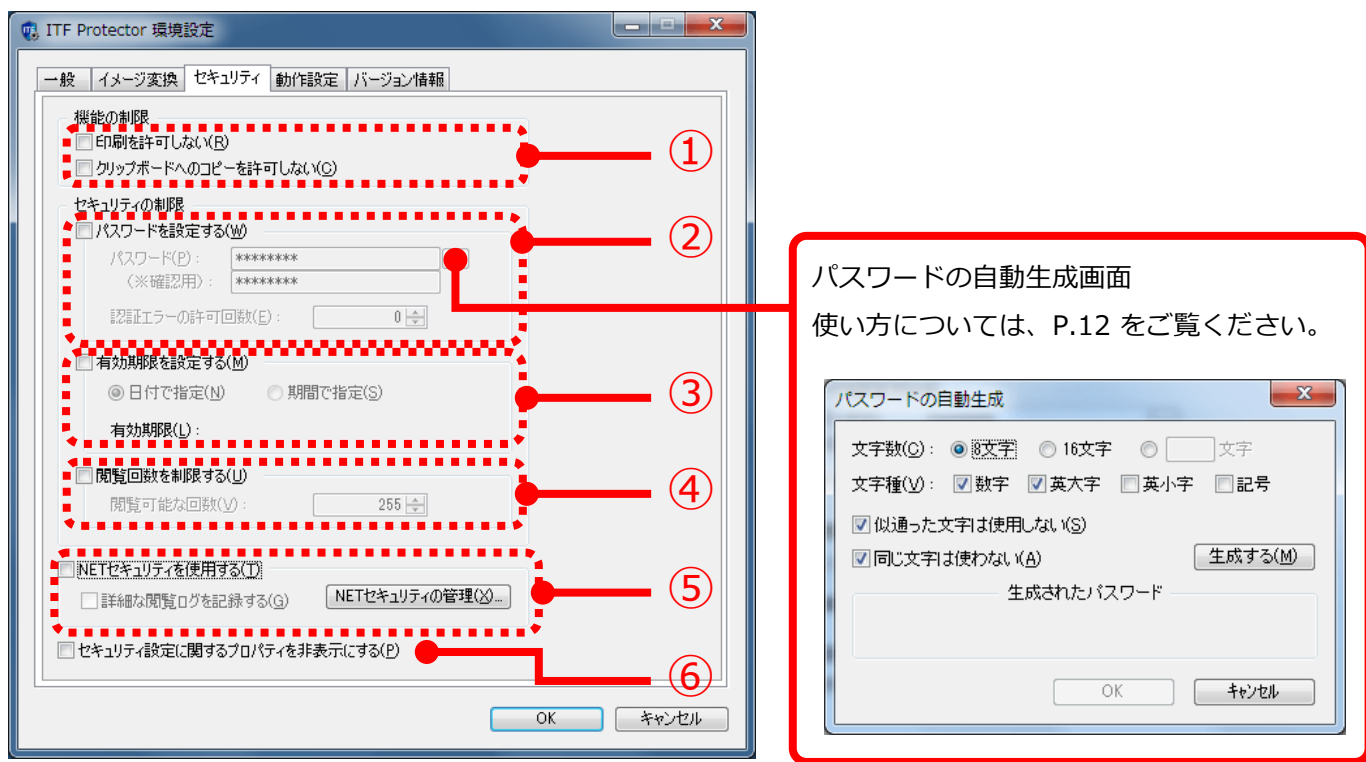
色ボタンを右クリックすると、下のポップアップメニューが表示されます。



2-4. 環境設定を行う - [セキュリティ] タブ

[セキュリティ] タブをクリックすると、下の画面が表示されます。
この画面では、ITFファイルの各種セキュリティ設定の初期値を設定します。

解説を参考に、各項目を設定してください。



① ITF Viewer で閲覧する時の、機能制限を設定します。

- 印刷を許可しない
閲覧者にファイルを印刷させたくない場合は、ここにチェックを入れてください。
- クリップボードへのコピーを許可しない
ファイルの内容を、他のアプリケーションに貼り付けさせたくない場合は、ここにチェックを入れてください。

② ファイル閲覧時の、パスワード認証設定を行います。

認証を求めるには [パスワードを設定する] にチェックを入れ、パスワードを入力してください。
パスワードは、6～32文字の半角英数で設定してください。

また、パスワードの認証失敗に回数制限を設ける場合は、「認証エラーの許可回数」に認証エラーの許容回数 (0は回数制限なし) を指定してください。
認証失敗回数が許容回数を超えると、ファイルが自動削除されます。

③ ファイルの有効期限設定を行います。

有効期限を設定するには [有効期限を設定する] にチェックを入れ、有効期限の指定方法を選択してください。
有効期日を過ぎたファイルは、開こうとした時に自動削除されます。

- 日付で指定
日付を直接指定します。具体的な日付は、ITFファイル作成時に指定します。
なお、初期値はITFファイルの作成日となります。
- 期間で指定
こちらを選択すると、右の日数入力欄が表示されます。
ファイル作成日から指定日数を加算した日付が、有効期日の初期値になります。



④ ファイルの閲覧回数の制限を設定します。

閲覧回数制限を設けるには [閲覧回数を制限する] にチェックを入れ、許可回数を入力してください。
許容回数は、1～255の範囲で設定してください。

⑤ NETセキュリティの使用を設定します。

NETセキュリティは、セキュリティ設定をWebサーバ上に記録し、より厳格にファイル閲覧者にセキュリティ設定を守らせる機能です。

NETセキュリティを使用するには、[NETセキュリティを使用する] にチェックを入れてください。

[閲覧ログを記録する] にチェックを入れると、ITFファイル閲覧者に閲覧環境、並びに印刷などの操作情報の提供を求めることができます。(※)

※この機能は有料オプションです。

ご利用になるには別途「NETセキュリティ強化オプション」をご購入ください。

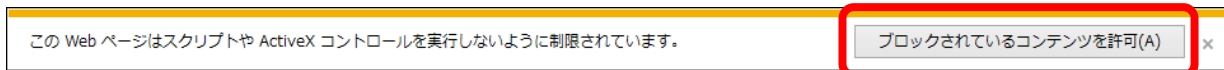
■ Webサーバ上に記録されたセキュリティ設定を管理するには...

[NETセキュリティの管理] ボタンをクリックしてください。

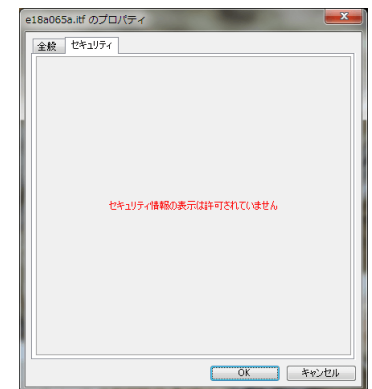
Webブラウザが起動し、NETセキュリティ専用サイトが表示されます。

なお、お使いのWebブラウザによっては、下のような警告メッセージが表示される場合があります。

その場合は、「表示を許可する」旨の応答をし、表示を続行してください。



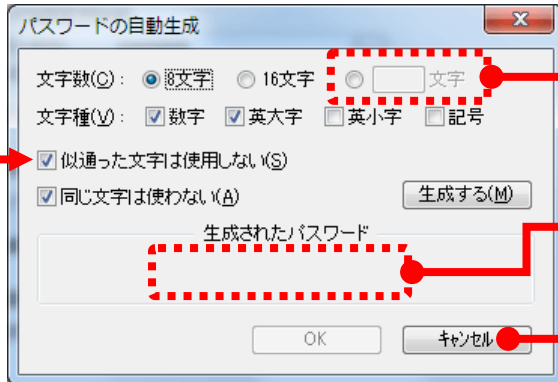
⑥ ここにチェックを入れて作成したITFファイルは、ITF Viewer で閲覧時、右のようにセキュリティに関する設定情報が、公開されなくなります。



■パスワードの自動生成画面について

この画面で、無作為なパスワードを自動生成することができます。

生成規則を指定して [生成する] ボタンをクリックすると、ご指定の規則に則ったパスワードが生成されます。生成されたパスワードを使用する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。生成されたパスワードが、パスワード入力欄に自動入力されます。



8、16以外の文字数を設定する場合は、ここにチェックを入れ、任意の文字数を入力してください。

[生成する] ボタンをクリックすると、ここに生成されたパスワードが表示されます。

ここにチェックを入れると、「I (大文字のアイ)」や「l (小文字のエル)」など、見間違い易い文字が使用されなくなります。

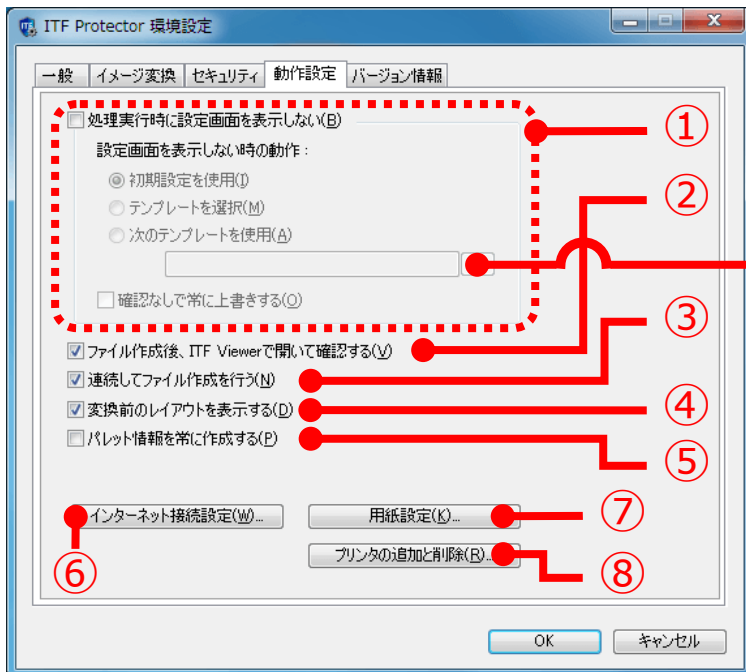
パスワードの生成を中止して、この画面を終了します。

2-5. 環境設定を行う - [動作設定] タブ

[動作設定] タブをクリックすると、下の画面が表示されます。

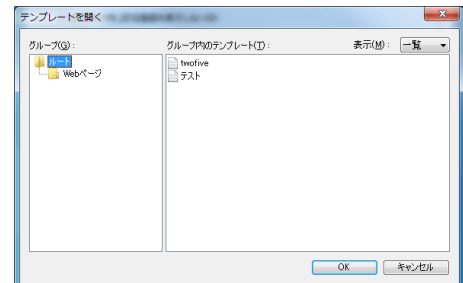
この画面では、ITFファイル作成時の ITF Protector の挙動を設定します。

解説を参考に、各項目を設定してください。



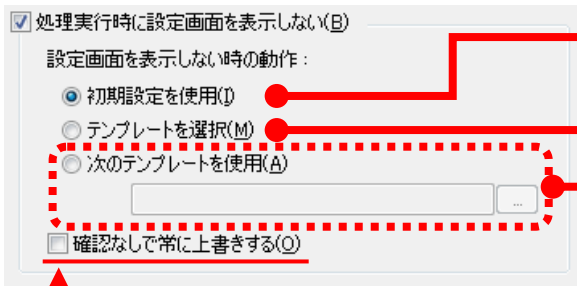
テンプレート選擇画面

使い方の詳細については、P.14 をご覧ください。



① ここにチェックを入れると、ITFファイル作成時にファイル設定画面が表示されなくなります。

ファイル設定画面を表示しない場合、ファイル作成時に設定を行えなくなるので、予めどの設定を使用してファイル作成を行うかを指定する必要があります。



環境設定画面で指定した設定を使用します。

環境設定画面の代わりに、テンプレート選択画面を表示し、選択したテンプレートの設定を使用します。

指定した選択したテンプレートの設定を使用します。
 [...] ボタンをクリックすると、テンプレート選択画面が表示されます。
 テンプレート選択画面から、使用するテンプレートを選択してください。

ここにチェックを入れると、出力先に同名のITFファイルがある場合、確認なしに上書き作成します。

② ここにチェックを入れると、作成したファイルをプレビュー表示します。

ITFファイル作成後、ITF Viewer が起動して作成したファイルを表示します。
 このファイル表示は、閲覧回数に含まれません。

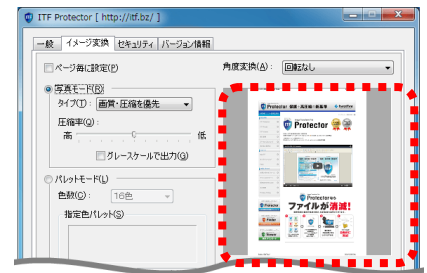
■ご注意

「処理実行時に設定画面を表示しない」にチェックが入っている場合は、本設定の有無に関わらず、ファイル作成後のプレビュー表示は行われません。

③ ここにチェックを入れると、ITFファイルの作成が完了しても、ファイル設定画面が終了しなくなります。

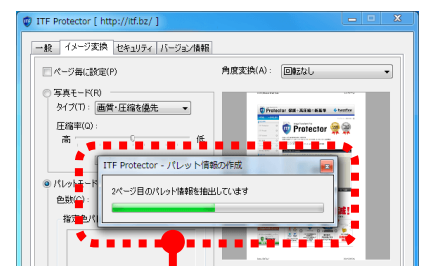
設定を変更しながらITFファイルを作成したい時など、再印刷することなくファイル作成を継続することが可能になります。

④ ここにチェックを入れると、ITFファイル作成時の [イメージ] タブ内に、変換前のレイアウトを表示します。



⑤ ここにチェックを入れると、ITFファイル作成時のデータ抽出の際、パレット情報を必ず作成します。

パレット情報は、「パレットモード」でのイメージ変換に必要な、色のデータです。
 主に「写真モード」を利用する場合は、このチェックを外しておく、パレット情報作成が省かれる分、高速になります。
 なお、本設定によりパレット情報の作成をスキップするように設定されていた場合でも、ファイル作成時にパレット情報が必要になった場合は、自動で必要なパレット情報のみ作成します。



パレット情報が必要になった場合は、自動で作成します。

⑥ インターネットへの接続設定を行います。

ITF Protector をご使用いただくには、インターネットへの接続が必要です。
 設定方法については、**3. インターネット接続環境を設定する** (→P.15) をご覧ください。

⑦ ITF Protector で使用する、用紙の管理を行います。
 詳しくは、**4. 用紙設定を行う** (→P.16) をご覧ください。

⑧ ITFファイルを生成するための仮想プリンタの管理を行います。
 詳しくは、**5. 仮想プリンタの追加・削除を行う** (→P.18) をご覧ください。

■テンプレート選択画面について

ITF Protector では、ITFファイルの作成設定をテンプレート（雛形）として保存し、必要な時に呼び出して利用することができます。

テンプレートの作成方法については、7. ITFファイル作成時の設定をテンプレート（雛形）化する（→P.32）をご覧ください。

この画面は、作成済みテンプレートの選択を行います。

使用するテンプレートが保存されているグループを選択してテンプレートを表示し、目的のテンプレートをダブルクリックするか、選択して [OK] ボタンをクリックしてください。

グループリスト。
テンプレートを格納する、グループを表示します。

テンプレートリスト。
グループ内に格納されている、テンプレートを表示します。

テンプレート。
グループ。
グループは階層構造になっています。

テンプレートの選択を中止して、この画面を終了します。

テンプレートリストの表示形式を変更します。

- 一覧

グループ内のテンプレートID: 表示(M): 一覧

normal
テスト

- 詳細

グループ内のテンプレートID: 表示(M): 詳細

名前	更新日時	作成日時
normal	2012/08/27 14:37:51	2012/08/27 14:37:51
テスト	2012/08/20 15:01:02	2012/08/20 15:01:02

2-6. 環境設定を行う - [バージョン情報] タブ

[バージョン情報] タブをクリックすると、下の画面が表示されます。

この画面では、お使いの ITF Protector のバージョン確認、並びに手動でのライセンス認証を行えます。

ITF Protector 環境設定

一般 イメージ変換 セキュリティ 動作設定 **バージョン情報**

ITF Protector Ver 2.03
Copyright (C) 2009 - 2015 Twofive, Inc.

Development / Sale
Twofive, Inc.

シリアルNo. [until 2016/5/4]

ライセンス認証(A) オンラインヘルプを表示(B)

OK キャンセル

ライセンス認証（手動認証）を行います。

ライセンス認証は、最後に認証を行った日から7日経過すると自動で行われますが、ライセンスの認証に失敗した場合は、ITFファイルを作成できなくなります。

出張などでインターネットに接続できない環境下にPCを持ち出す際は、事前に手動認証を行なっておくと、ライセンス認証の失敗によって、ITF Protectorが使用できなくなる事態を回避できます。

オンラインヘルプ（本書）を表示します。

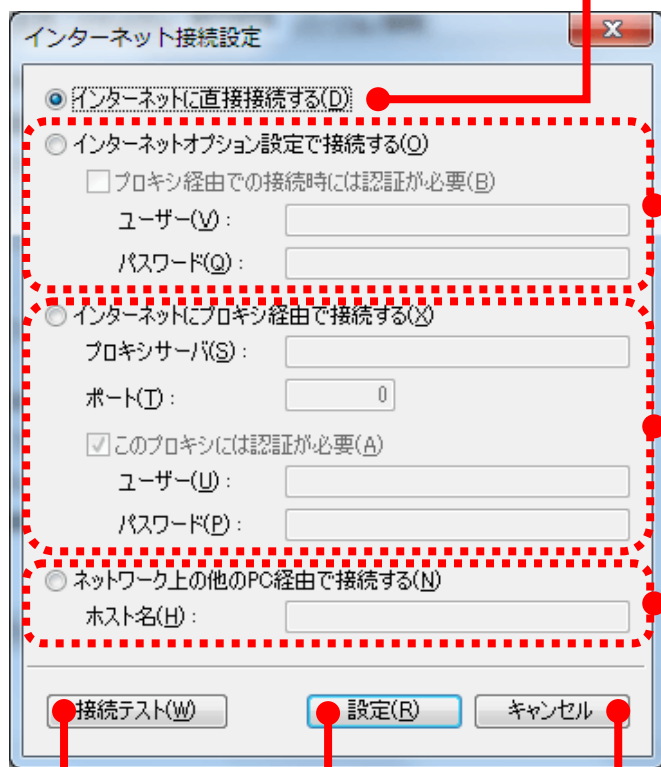
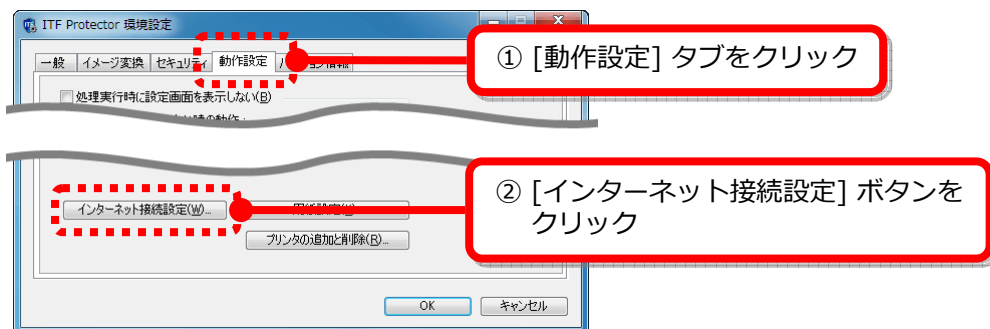
クリックすると、WEBブラウザが起動して、ヘルプページを表示します。インターネットに接続されている必要があります。

3. インターネット接続環境を設定する

ITF Protector をご利用になるには、インターネットへの接続が必要です。

もし、お使いのPCがプロキシサーバを介してインターネットに接続されている場合は、ITF Protector にもプロキシサーバ設定が必要です。

プロキシサーバをご利用の場合は、次の設定を行ってください。



インターネットに直接接続できる場合は、こちらを選択してください。

Windows のインターネット接続設定を使用する場合は、こちらを選択してください。

プロキシサーバ接続時に認証が必要な場合は、[プロキシ経由での接続時には認証が必要] にチェックを入れ、ユーザーIDとパスワードを入力してください。

プロキシサーバ経由でインターネットに接続している場合は、こちらを選択してプロキシサーバ名 (またはIPアドレス) とポート番号を入力してください。

プロキシサーバ接続時に認証が必要な場合は、[このプロキシには認証が必要] にチェックを入れ、ユーザーIDとパスワードを入力してください。

「License Manager」を介してライセンス認証などを行う場合は、こちらを選択して接続先PC名、またはIPアドレスを入力してください。

設定を適用/保存し、この画面を終了します。

画面上の設定で、実際にインターネットに接続できるかをテストします。

設定を反映せず、この画面を終了します。

■ License Manager について

License Manager は、ネットワーク (LAN、またはWAN) 上のインターネットに接続できるPCにサービスとして常駐し、ネットワーク上のインターネットへの接続が禁止されているPCでお使いの弊社ライセンス製品に対し、インターネット接続が必要な処理を代行して行う、中継プログラムです。

License Manager は、My ITF より無料でダウンロードしていただけます。

4. 用紙設定を行う

ITF Protector で使用する用紙の設定を行うには、次の操作を行なってください。
なお、この操作を行うには、管理者権限でのログオンが必要です。



※この画面を表示する際、「ユーザーアカウント制御」による許可を求められます。「はい」または「続行」で応答し、続行してください。

登録済み用紙のリスト(L):	用紙名	サイズ	単...
<input type="checkbox"/>	10x11 インチ	254.000 x 279.400	mm
<input type="checkbox"/>	10x14 インチ	254.000 x 355.600	mm
<input type="checkbox"/>	11x17 インチ	279.400 x 431.800	mm
<input type="checkbox"/>	12x11 インチ	304.932 x 279.521	mm
<input type="checkbox"/>	15x11 インチ	381.000 x 279.400	mm
<input type="checkbox"/>	6 3/4 Envelope	92.075 x 165.100	mm
<input type="checkbox"/>	9x11 インチ	228.600 x 279.400	mm
<input checked="" type="checkbox"/>	A0	841.000 x 1189.000	mm
<input checked="" type="checkbox"/>	A1	594.000 x 841.000	mm
<input checked="" type="checkbox"/>	A2	420.000 x 594.000	mm
<input checked="" type="checkbox"/>	A2 横	594.000 x 420.000	mm
<input checked="" type="checkbox"/>	A3	297.000 x 420.000	mm
<input type="checkbox"/>	A3 Extra	322.000 x 445.000	mm
<input type="checkbox"/>	A3 Extra Transverse	322.000 x 445.000	mm
<input type="checkbox"/>	A3 Transverse	297.000 x 420.000	mm

ITF Protector で使用する用紙を設定します。
ここでは、お使いのPCに登録されている用紙が一覧表示されます。
ITF Protector で使用したい用紙にチェックを入れてください。

用紙を追加登録します。

登録済み用紙を編集します。

登録済み用紙を削除します。

この画面を終了します。

行った用紙設定の編集 (追加や変更、削除) を、PCに反映させます。
確認メッセージが表示されるので、[OK] ボタンをクリックして編集を適用してください。

行った用紙設定の編集を取り消し、編集前の状態に復元します。
確認メッセージが表示されるので、[OK] ボタンをクリックして編集をリセットしてください。

用紙設定をTSV (タブ区切り) ファイルとして出力します。

TSVファイルで出力された用紙設定データを取り込みます。

■用紙を登録する

[追加] ボタンをクリックすると、下の画面が表示されます。
用紙名、及び用紙サイズを設定して、[OK] ボタンをクリックしてください。

追加する用紙名を入力します。

任意の名称を入力することも可能ですが、▼をクリックすると、代表的な用紙名がドロップダウンされます。そこから選択すると、選択した用紙名に対応した用紙サイズが自動補完されます。
なお、既に登録されている用紙と、同じ名称の用紙は登録できません。


用紙の大きさを設定します。

単位毎の用紙幅、並びに用紙の高さは、下記の範囲で指定してください。

単位	値の範囲
mm	10 ~ 1524
Inchi	0.394 ~ 60

■登録済み用紙を編集する

リストから編集を行う用紙を選択して [編集] ボタンをクリックすると、下の画面が表示されます。
新しい用紙サイズを設定して、[OK] ボタンをクリックしてください。
用紙名は、変更できません。

なお、リスト上で  のついた用紙は、Windows が定義している用紙です。
この用紙については、編集できません。


用紙の大きさを設定します。

単位毎の用紙幅、並びに用紙の高さは、下記の範囲で指定してください。

単位	値の範囲
mm	10 ~ 1524
Inchi	0.394 ~ 60

■登録済み用紙を削除する

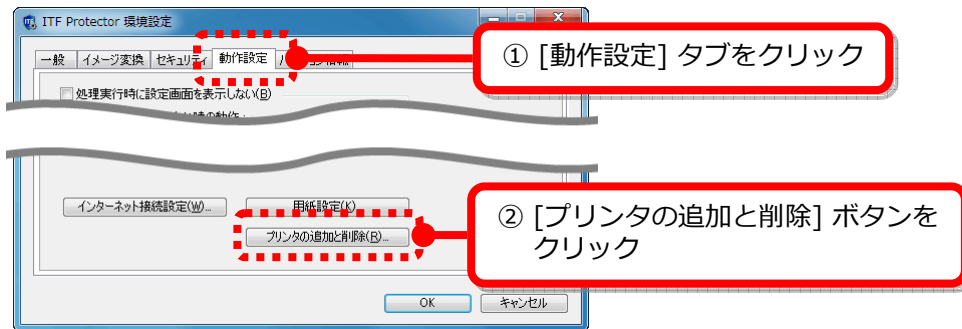
リストから削除したい用紙を選択して [削除] ボタンをクリックすると、確認メッセージが表示されます。
削除を続行するには、メッセージの [OK] ボタンをクリックしてください。

なお、リスト上で  のついた用紙は、Windows が定義している用紙です。
この用紙については、削除できません。

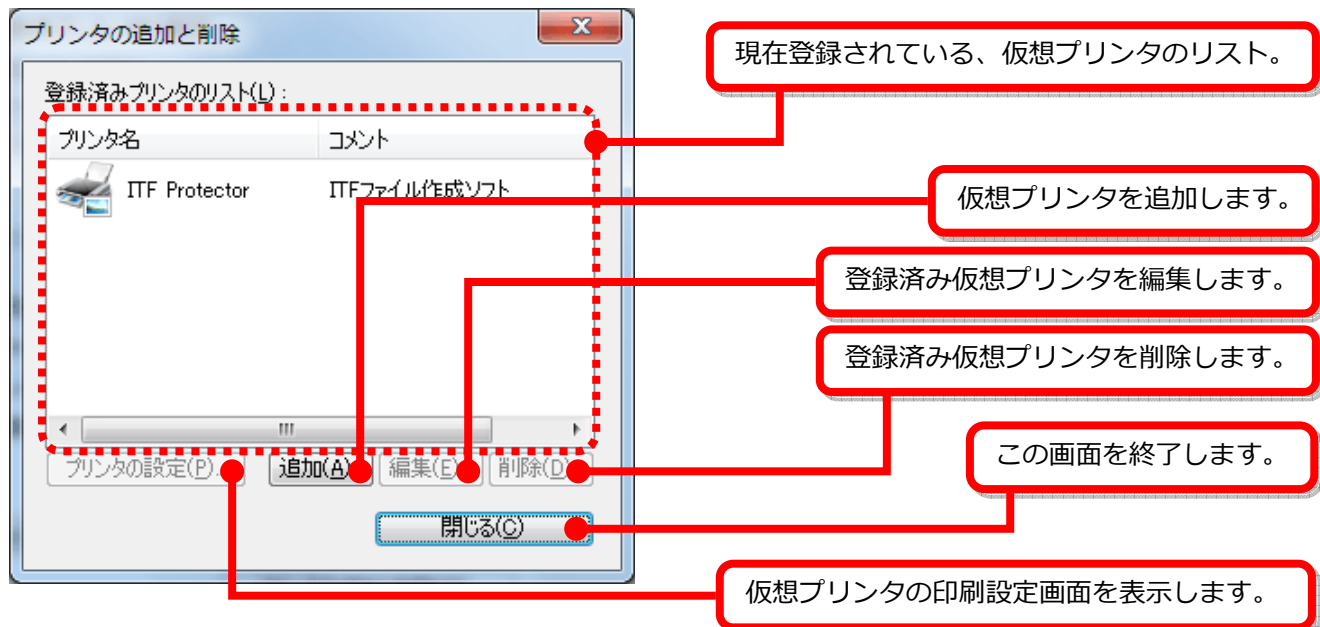
5. 仮想プリンタの追加・削除を行う

ITF Protector をインストールすると、ITFファイルを生成するための仮想プリンタが登録されます。この仮想プリンタは複数登録することができ、プリンタ毎に異なる出力解像度などを設定することが可能です。

仮想プリンタを追加登録、または削除するには、以下の操作を行ってください。なお、この操作を行うには、管理者権限でのログオンが必要です。

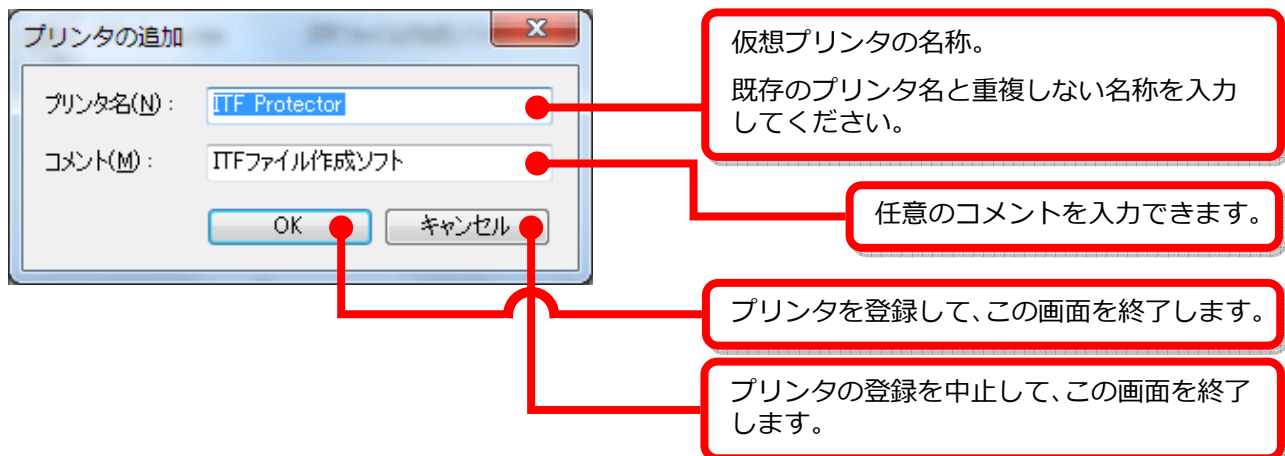


※この画面を表示する際、「ユーザーアカウント制御」による許可を求められます。「はい」または「続行」で応答し、続行してください。



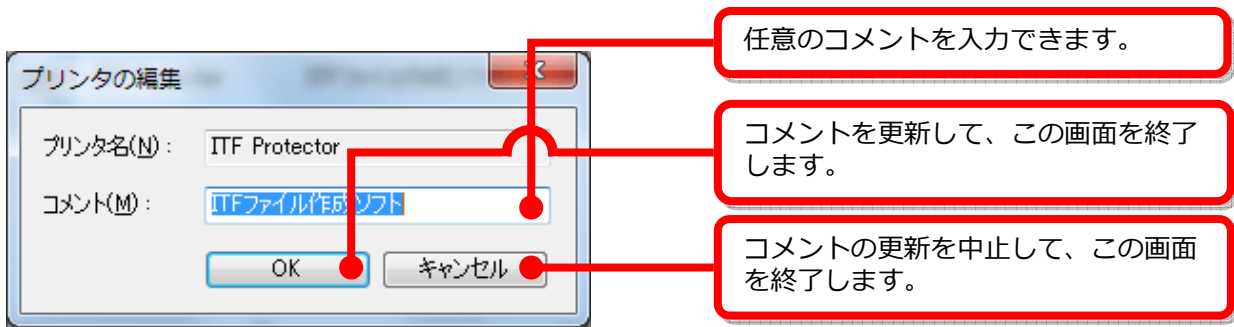
■プリンタを追加する

[追加] ボタンをクリックすると、下の画面が表示されます。プリンタ名と、必要に応じてコメントを入力して、[OK] ボタンをクリックしてください。



■登録済みプリンタを編集する

リストから編集を行うプリンタを選択して [編集] ボタンをクリックすると、下の画面が表示されます。新しいコメントを入力して、[OK] ボタンをクリックしてください。プリンタ名を変更することはできません。



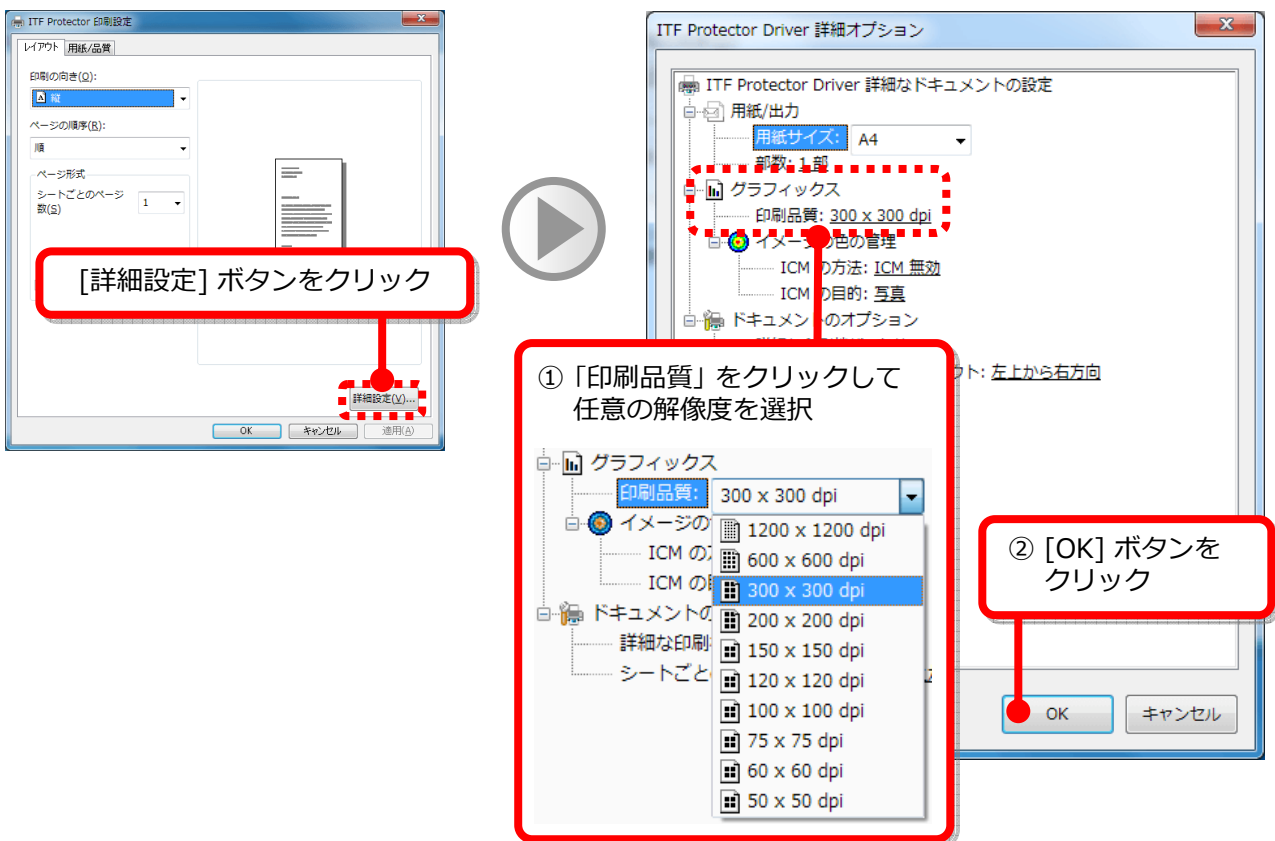
■登録済みプリンタを削除する

リストから削除したいプリンタを選択して [削除] ボタンをクリックすると、確認メッセージが表示されます。削除を続行するには、メッセージの [OK] ボタンをクリックしてください。

■プリンタの既存解像度などを変更する

リストから変更したいプリンタを選択して [プリンタの設定] ボタンをクリックすると、下の画面が表示されます。この画面にて、ITFファイル作成時の既定解像度などを変更することができます。

●例：既存解像度を変更する



■仮想プリンタについて

Windows の「デバイスとプリンタ」画面にて、ITF Protector の仮想プリンタを削除すると、仮想プリンタの追加 (再登録) ができなくなります。仮想プリンタの削除は、ITF Protector を介して行ってください。

また、仮想プリンタの動作が不安定になった場合は、ITF Protector を一旦アンインストールして、再度インストールし直してください。

6. ITFファイルを作成する

ITF Protector では、さまざまな方法でITFファイルを作成することができます。

6-1. 仮想プリンタからITFファイルを作成する

ITF Protector は、印刷機能のあるアプリケーションの印刷機能と連動して、動作します。

ITFファイルを作成するには、元データをオープンできるアプリケーションの「印刷」コマンド (使用するプリンタを選択できるもの) を実行して、プリンタの一覧から仮想プリンタを選択してください。

仮想プリンタについては、5. 仮想プリンタの追加・削除を行う (→P.18) をご覧ください。

●例 : Microsoft Word 2003 の場合



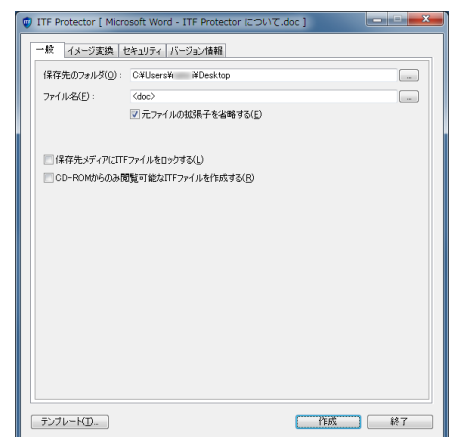
ITF Protector の仮想プリンタで印刷を行うと、右の画面が表示されます。

ITFファイルの生成に必要なデータの抽出を行っています。
ITFファイルの作成を中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。



データの抽出処理が完了すると、右のファイル設定画面が表示されます。

※2-5. 環境設定を行う - [動作設定] タブ (→P.12) で
[処理実行時に設定画面を表示しない] にチェックを入れている場合は、
この画面は表示されません。

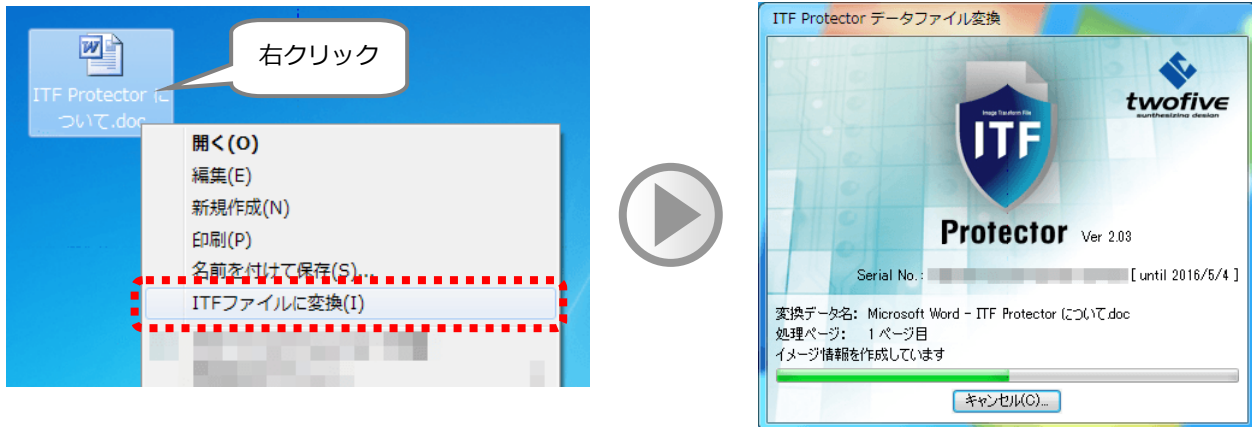


6-2. ファイルを開かずにITFファイルを作成する

JPEGなどの画像ファイル、並びにPDF (※) や Microsoft Word などの一部のドキュメントファイルについては、ファイルを開くことなく、ITFファイルを作成することができます。

※PDFファイルの変換には、Adobe Reader のインストールが必要です。

作成元ファイルを右クリックして、ポップアップメニューから [ITFファイルに変換] を選択してください。



■ 本機能に対応するファイルについて

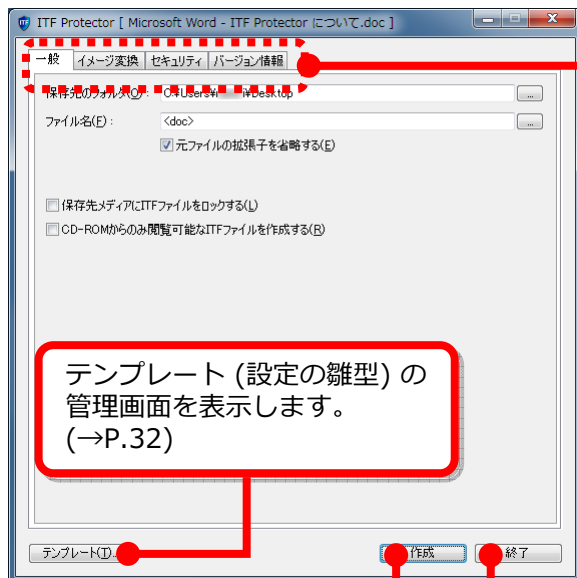
画像ファイルについては、以下のものが対象です。

Jpeg, ビットマップ, Ping, Jpeg2000, Tiff, Gif

また、本機能はMicrosoft社準拠のプリンタ指定印刷コマンド「PrintTo」を使用しており、変換元のファイルに関連付いている、アプリケーションの仕様に従います。

6-3. ITF Protector ITFファイル設定画面

この画面では、ITFファイル作成に関する設定を行います。



設定項目カテゴリータブ

各設定項目は、カテゴリー毎に分類されています。各タブをクリックすると、タブに対応した項目の設定ページに切り替わります。

- [一般] タブ
ファイルの作成場所や、ファイル名についての設定を行います。(→P.22)
- [イメージ変換] タブ
画像変換処理についての設定を行います。(→P.23)
- [セキュリティ] タブ
ファイルのセキュリティについての設定を行います。(→P.28)
- [バージョン情報] タブ
ITF Protector のバージョン情報を表示します。(→P.30)

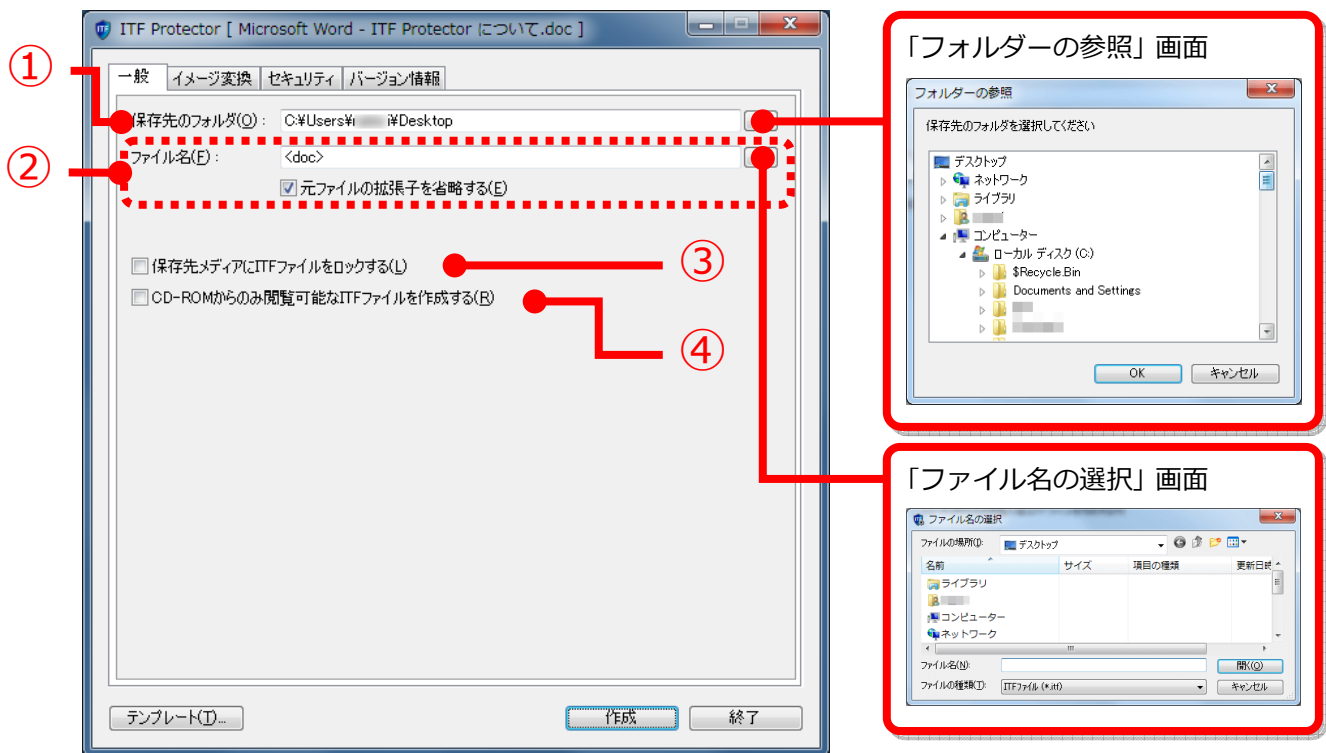
ITFファイルの作成を開始します。(→P.31)

ITFファイルの作成を中止して、終了します。

6-4. ITFファイルの設定を行う - [一般] タブ

[一般] タブをクリックすると、下の画面が表示されます。
この画面では、ITFファイルのファイル出力に関する設定を行います。

解説を参考に、各項目を設定してください。



① ITFファイルの保存先を指定します。
[...] ボタンをクリックして、「フォルダーの参照」画面から選択入力することもできます。

② ITFファイルの名前を、任意に指定します。
ファイル名には、次の置換文字列を使用することもできます。

- <ymd> ファイルの作成日付 (年月日) に置換されます。
- <hms> ファイルの作成時刻 (時分秒) に置換されます。
- <doc> 元データのファイル名に置換されます。
「元ファイルの拡張子を省略する」にチェックを入れると、拡張子を取り除いた名称で置換されます。

■ 置換文字列の使用例

下の設定の場合は、「あいう20150401えお」となります。(※2015年4月1日に作成時)

ファイル名(E): あいう<ymd>えお

③ ここにチェックを入れて作成したITFファイルは、作成した出力先媒体 (ハードディスクやUSBメモリ) の外では、閲覧できなくなります。

※この機能は、④の「CD-ROMからのみ閲覧可能なITFファイルを作成する」との併用はできません。



- ④ ここにチェックを入れて作成したITFファイルは、CD-R/RW、またはDVD-R/RWに記録された状態でないと閲覧できなくなります。

※この機能は、NETセキュリティ (→P.29) との併用が必須です。



6-5. ITFファイルの設定を行う - [イメージ変換] タブ

[イメージ変換] タブをクリックすると、下の画面が表示されます。この画面では、イメージ変換に関する設定を行います。

解説を参考に、各項目を設定してください。

ページ別に設定を行う場合は、ここにチェックを入れてください。ページ別設定用の操作項目が、追加表示されます。

※全てのページに同じ設定を使用する場合は、チェックを外してください。

出力結果を、指定の角度で回転させます。

出力元ソフトウェア側で、出カイメージの縦横指定ができない場合に、ご利用ください。

ページ内の画像データの特性に合わせて、モードを選択してください。選択されたモードに付随する設定項目が、操作できるようになります。

- 写真モード
フルカラーで圧縮します。このモードは、写真などの減色されることが好ましくないデータに適しています。
- パレットモード
画像内で使用する色を指定して減色することで、画像を圧縮します。このモードは、文章や設計図、グラフ資料などの使用色数の少ないデータに適しています。

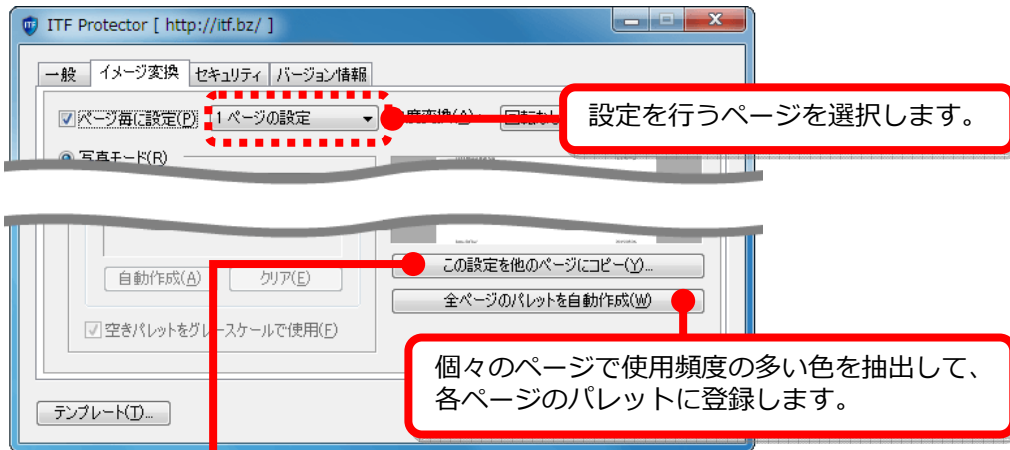
出力結果 (ITFファイル) の、色の濃淡を指定します。

出力結果の色調に調整が必要な場合に、ご利用ください。右の「変換前レイアウト表示 (※)」で、大まかな色調の変化を確認できます。

※表示させるには、環境設定画面にて「変換前のレイアウトを表示する」にチェックを入れておく必要があります。(→P.13)

■ページ別に設定を行う

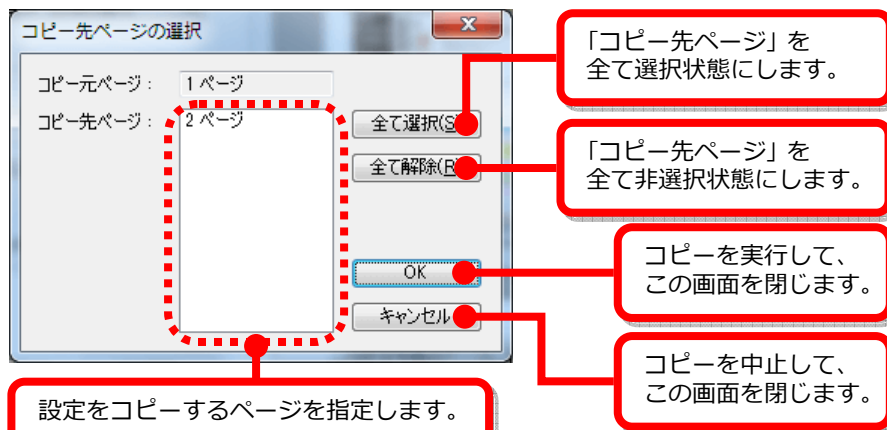
[ページ毎に設定] にチェックを入れると、複数ページ設定用の項目が追加表示されます。



現在表示しているページの設定を、他のページにコピーします。

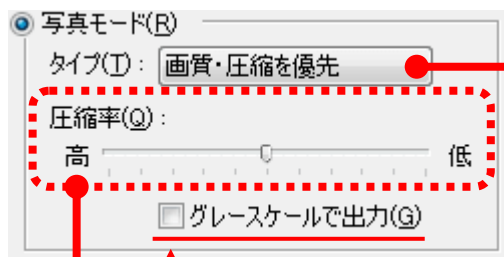
このボタンをクリックすると、下の画面が表示されます。

設定をコピーするページを選択して、[OK] ボタンをクリックしてください。



設定をコピーするページを指定します。
クリックする都度、選択/非選択状態が切り替わります。
ページは複数選択が可能です。

■写真モードを選択した場合の操作



変換タイプを指定します。

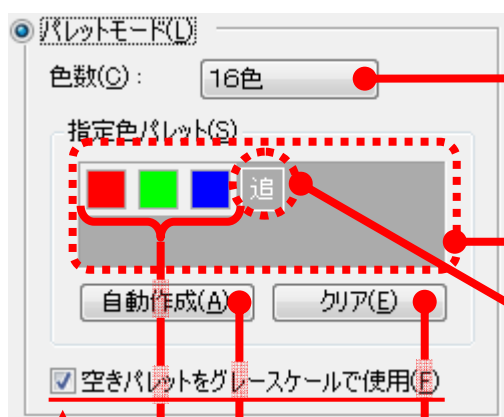
- 画質・圧縮を優先
元画像にもよりますが、概ね「変換速度を優先」タイプより高圧縮なITFファイルが作成できます。また、写真やコントラスト差の高い書類は、より美しく変換することができます。
- 変換速度を優先
圧縮率を上げるほどブロックノイズが発生し易くなりますが、コントラスト差の低いグラフィックデータなどの再現性は高くなります。

画像の圧縮率を指定します。

つまみを左に移動させるほど、データ容量は圧縮されますが、その分画質は劣化します。

ここにチェックを入れると、画像を256階調のモノクロ画像に変換します。元画像がカラーの場合は、さらにデータ容量を節約できます。

■パレットモードを選択した場合の操作



画像内で使用する色数を設定します。

「モノクロ」を指定した場合、これ以降の項目は設定不能なので、操作できなくなります。



パレット。画像内で使用する色を表示します。

追加ボタン。

画像内で使用する色を、パレットに追加します。白と黒は必ず使用するのので、実際に追加できる色は [色数] で指定した色数より2色分少なくなります。

色ボタン。パレットに登録された色を表します。

使用頻度の多い色を抽出して、自動的にパレットに登録します。
※ページが複数あり、全ページに同じ設定を使用する場合は、1ページ目の情報が使用されます。

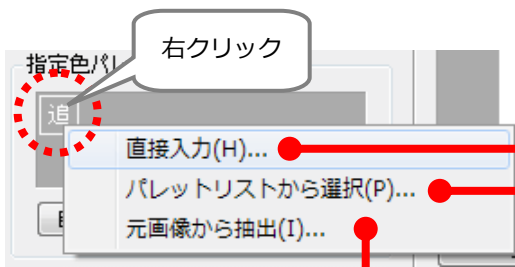
パレットを消去します。

ここにチェックを入れると、余ったパレットをグレースケールに使用します。

例えば [色数] に16色を指定したが、パレットには4色しか登録しなかった場合、余った12色分のパレットは、グレースケールに使用されます。

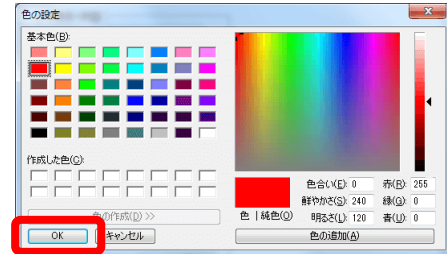
■パレットに色を追加する

追加ボタンを右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。
状況に応じて、それぞれの色の追加方法をご利用ください。



「色の指定」画面が表示されます。

「色の指定」画面上で、登録したい色を選択して [OK] ボタンをクリックすると、パレットに色が追加されます。



※「色の指定」画面は、追加ボタンをクリックしても、表示されます。

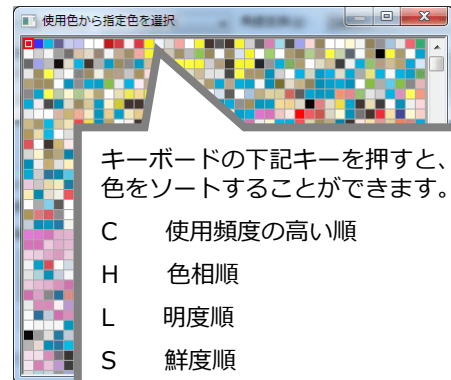
下の画面が表示されます。

現在処理しているページ (★) が、拡大表示されます。
ここから登録したい色をダブルクリックすると、パレットに色が追加されます。



下の画面が表示されます。

この画面には、現在処理しているページ (★) で使用されている色が一覧表示されます。
ここから登録したい色をダブルクリックすると、パレットに色が追加されます。



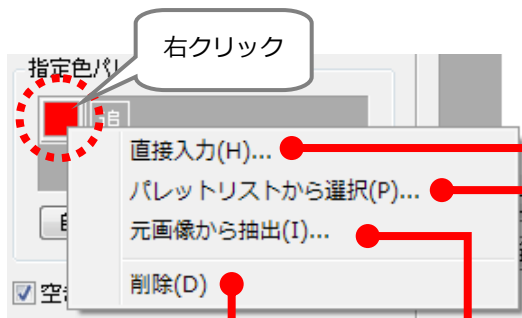
キーボードの下記キーを押すと、色をソートすることができます。

- C 使用頻度の高い順
- H 色相順
- L 明度順
- S 鮮度順
- R 赤の要素が強い順
- G 緑の要素が強い順
- B 青の要素が強い順

★全ページに同じ設定を使用する場合は、1ページ目の情報が使用されます。

■パレットの色を変更/削除する

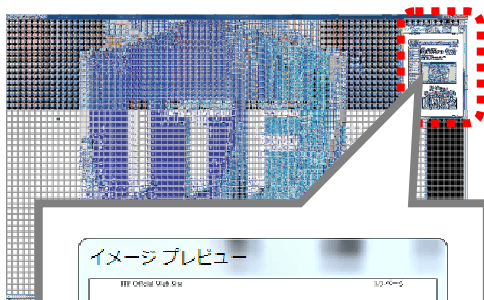
色ボタンを右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。状況に応じて、それぞれの色の追加方法をご利用ください。



この色ボタンを削除します。

下の画面が表示されます。

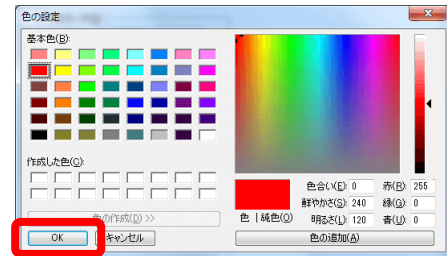
この画面は、現在処理しているページ(★)を拡大表示します。ここから登録したい色をダブルクリックすると、色ボタンが更新されます。



現在、拡大表示している部分。
マウスでドラッグすると、移動することができます。

「色の指定」画面が表示されます。

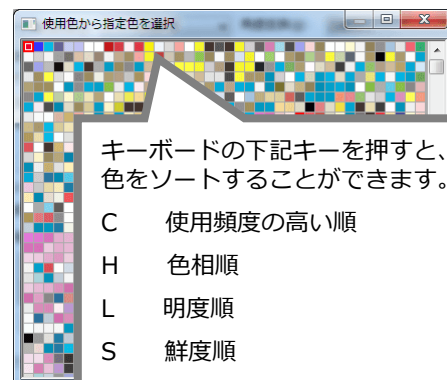
「色の指定」画面上で、登録したい色を選択して [OK] ボタンをクリックすると、色ボタンが更新されます。



※「色の指定」画面は、色ボタンをクリックしても、表示されます。

下の画面が表示されます。

この画面には、現在処理しているページ(★)で使用されている色が一覧表示されます。ここから登録したい色をダブルクリックすると、色ボタンが更新されます。



キーボードの下記キーを押すと、色をソートすることができます。

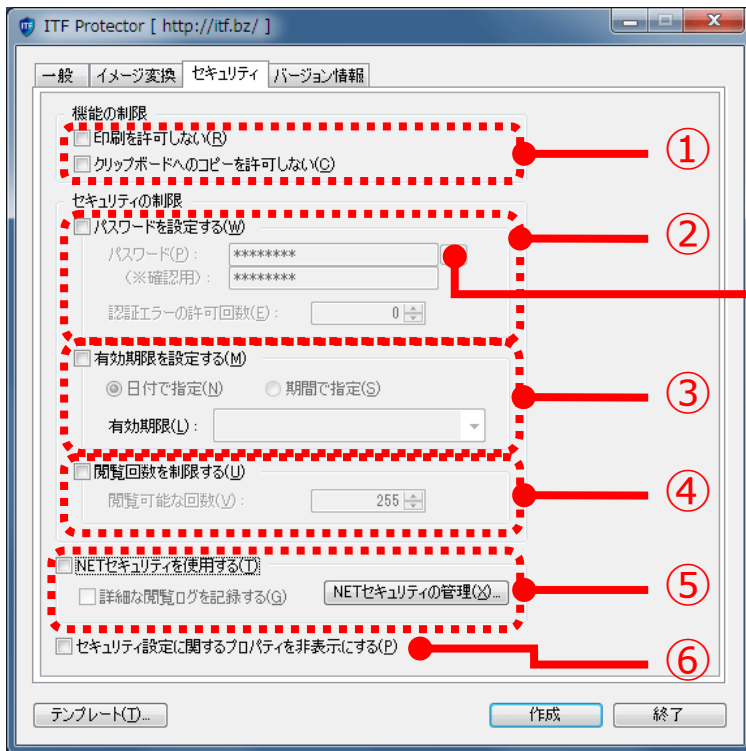
- C 使用頻度の高い順
- H 色相順
- L 明度順
- S 鮮度順
- R 赤の要素が強い順
- G 緑の要素が強い順
- B 青の要素が強い順

★全ページに同じ設定を使用する場合は、1ページ目の情報が使用されます。

6-6. ITFファイルの設定を行う - [セキュリティ] タブ

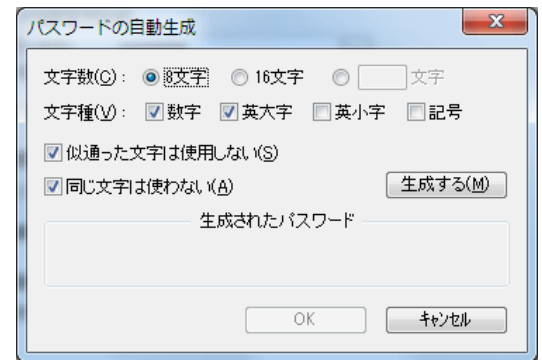
[セキュリティ] タブをクリックすると、下の画面が表示されます。
この画面では、ITFファイルの各種セキュリティを設定します。

解説を参考に、各項目を設定してください。



パスワードの自動生成画面

使い方については、P.30 をご覧ください。



① ITF Viewer で閲覧する時の、機能制限を設定します。

- 印刷を許可しない
閲覧者にファイルを印刷させたくない場合は、ここにチェックを入れてください。
- クリップボードへのコピーを許可しない
ファイルの内容を、他のアプリケーションに貼り付けさせたくない場合は、ここにチェックを入れてください。

② ファイル閲覧時の、パスワード認証設定を行います。

認証を求めるには [パスワードを設定する] にチェックを入れ、パスワードを入力してください。
パスワードは、6～32文字の半角英数で設定してください。

また、パスワードの認証失敗に回数制限を設ける場合は、「認証エラーの許可回数」に認証エラーの許容回数 (0は回数制限なし) を指定してください。

認証失敗回数が許容回数を超えると、ファイルが自動削除されます。

③ ファイルの有効期限設定を行います。

有効期限を設定するには [有効期限を設定する] にチェックを入れ、有効期限の指定方法を選択してください。
有効期日を過ぎたファイルは、開こうとした時に自動削除されます。

● 日付で指定

有効期日 (指定日まで閲覧可能) を直接入力するか、▼をクリックすると表示される、カレンダーから日付を選択してください。



●期間で指定

こちらを選択すると、下の日数入力欄が表示されます。
ファイル作成日を基点とする、有効期間 (日数) を入力してください。

④ ファイルの閲覧回数の制限を設定します。

閲覧回数制限を設けるには [閲覧回数を制限する] にチェックを入れ、許容回数を入力してください。

⑤ NETセキュリティの使用を設定します。

NETセキュリティは、セキュリティ設定をWebサーバ上に記録し、より厳格にファイル閲覧者にセキュリティ設定を知らせる機能です。

NETセキュリティを使用するには、[NETセキュリティを使用する] にチェックを入れてください。

[閲覧ログを記録する] にチェックを入れると、ITFファイル閲覧者に閲覧環境、並びに印刷などの操作情報を提供を求めることができます。(※)

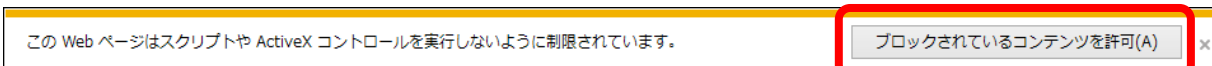
※この機能は有料オプションです。

ご利用になるには、別途「NETセキュリティ強化オプション」をご購入ください。

■ Webサーバ上に記録されたセキュリティ設定を管理するには...

[NETセキュリティの管理] ボタンをクリックしてください。
ブラウザが起動し、NETセキュリティ専用サイトが表示されます。

なお、お使いのブラウザによっては、下のような警告メッセージが表示される場合があります。
その場合は、「表示を許可する」旨の応答をし、表示を続行してください。



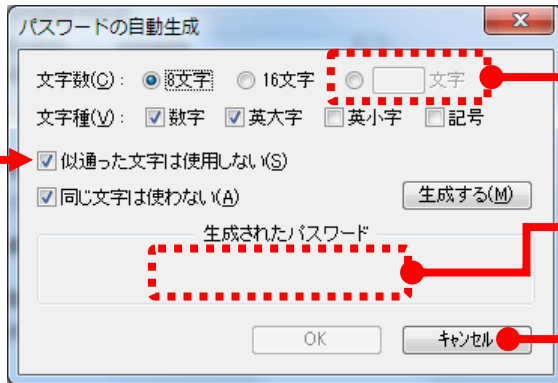
⑥ ここにチェックを入れて作成したITFファイルは、ITF Viewer で閲覧時、右のようにセキュリティに関する設定情報が、公開されなくなります。



■パスワードの自動生成画面について

この画面で、無作為なパスワードを自動生成することができます。

生成規則を指定して [生成する] ボタンをクリックすると、ご指定の規則に則ったパスワードが生成されます。生成されたパスワードを使用する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。生成されたパスワードが、パスワード入力欄に自動入力されます。



8、16以外の文字数を設定する場合は、ここにチェックを入れ、任意の文字数を入力してください。

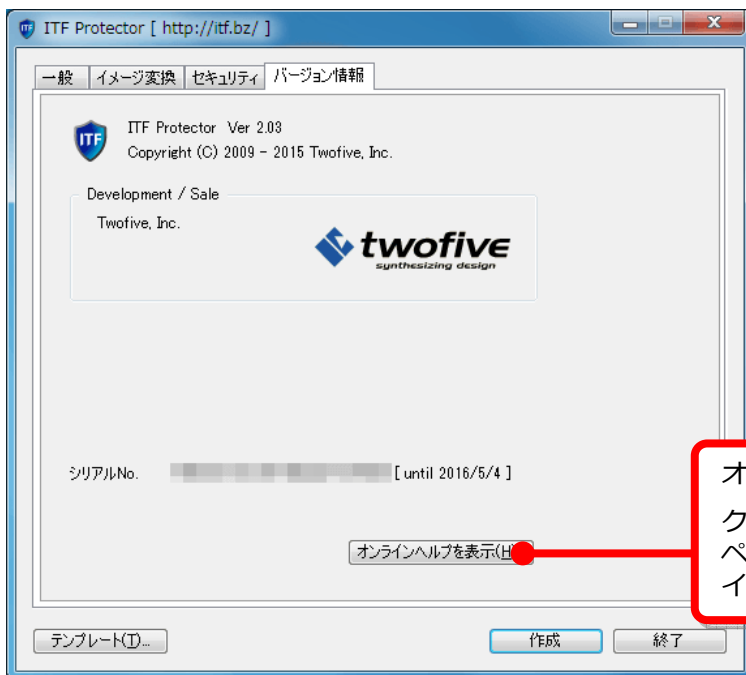
[生成する] ボタンをクリックすると、ここに生成されたパスワードが表示されます。

ここにチェックを入れると、「I (大文字のアイ)」や「l (小文字のエル)」など、見間違いやすい文字が使用されなくなります。

パスワードの生成を中止して、この画面を終了します。

6-7. ヘルプを見る - [バージョン情報] タブ

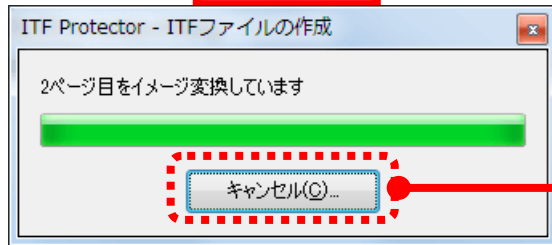
[バージョン情報] タブをクリックすると、下の画面が表示されます。この画面から、オンラインヘルプ (本書) を閲覧することができます。



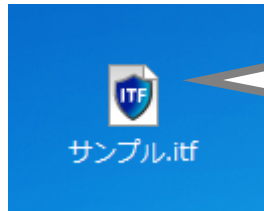
オンラインヘルプ (本書) を表示します。クリックすると、WEBブラウザが起動してヘルプページを表示します。インターネットに接続されている必要があります。

6-8. ITFファイルを出力する

各タブでの設定が完了しましたら、[作成] ボタンをクリックしてください。ITFファイルの作成処理が開始されます。



ここをクリックすると、ITFファイルの作成を中止します。

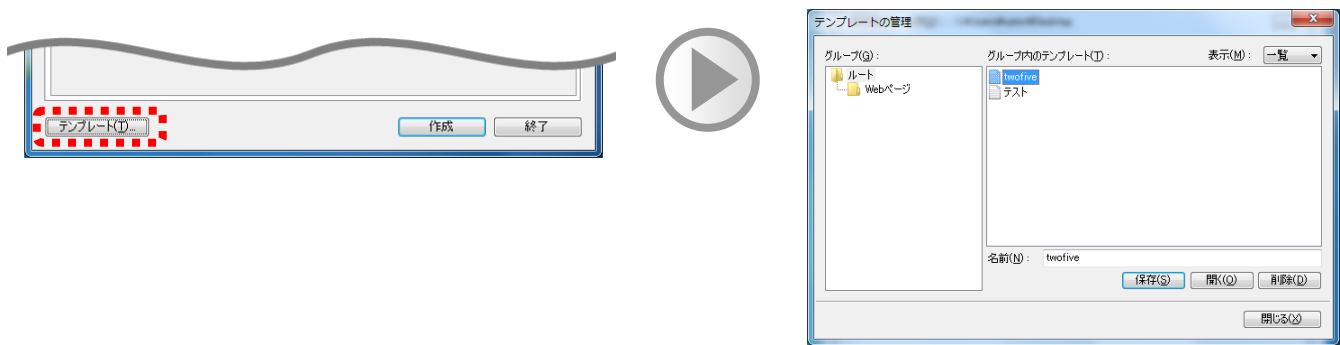


作成後にプレビュー表示するよう設定 (→P.13) した場合は、作成完了後に ITF Viewer が起動し、作成したファイルの内容を確認することができます。

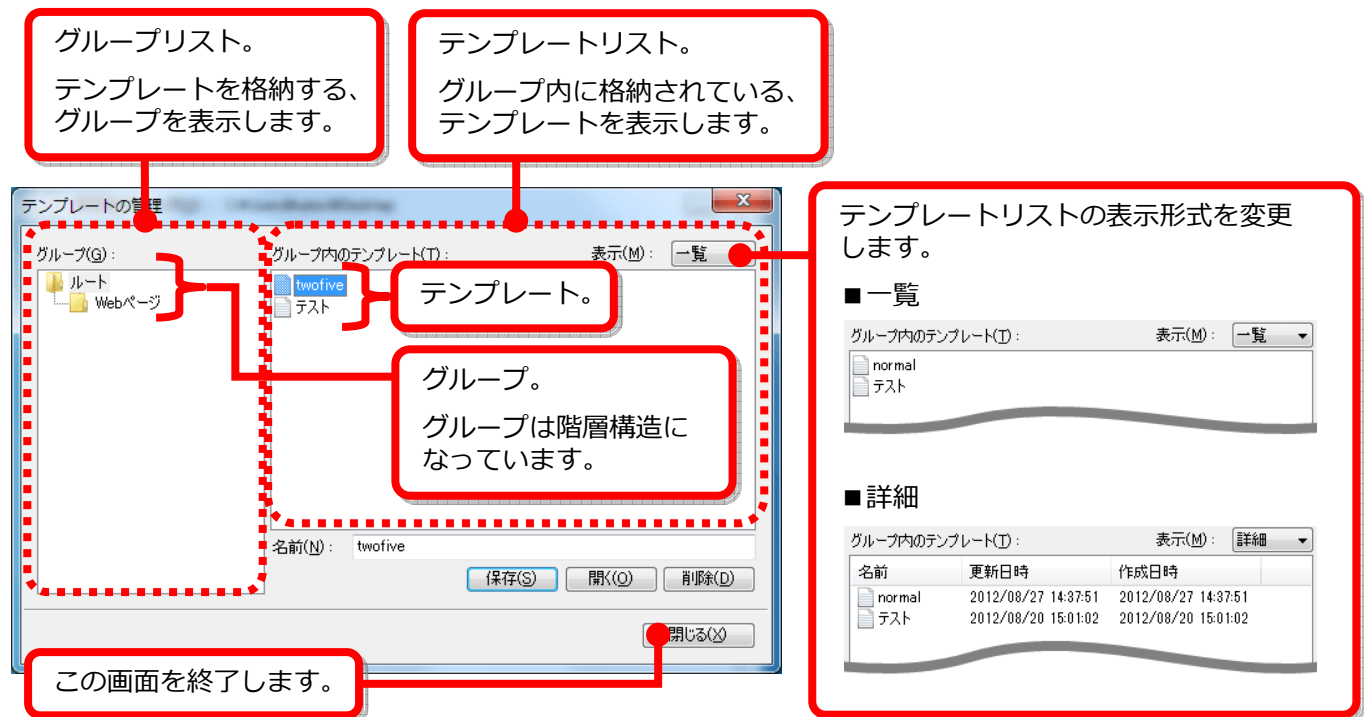
※ITF Viewer の操作方法などについては、ITF Viewer のヘルプをご覧ください。

7. ITFファイル作成時の設定をテンプレート（雛形）化する

ITF Protector では、ITFファイル作成時の設定を、テンプレート（雛型）として保存することができます。ファイル設定画面下部の [テンプレート] ボタンをクリックすると、下の画面が表示されます。

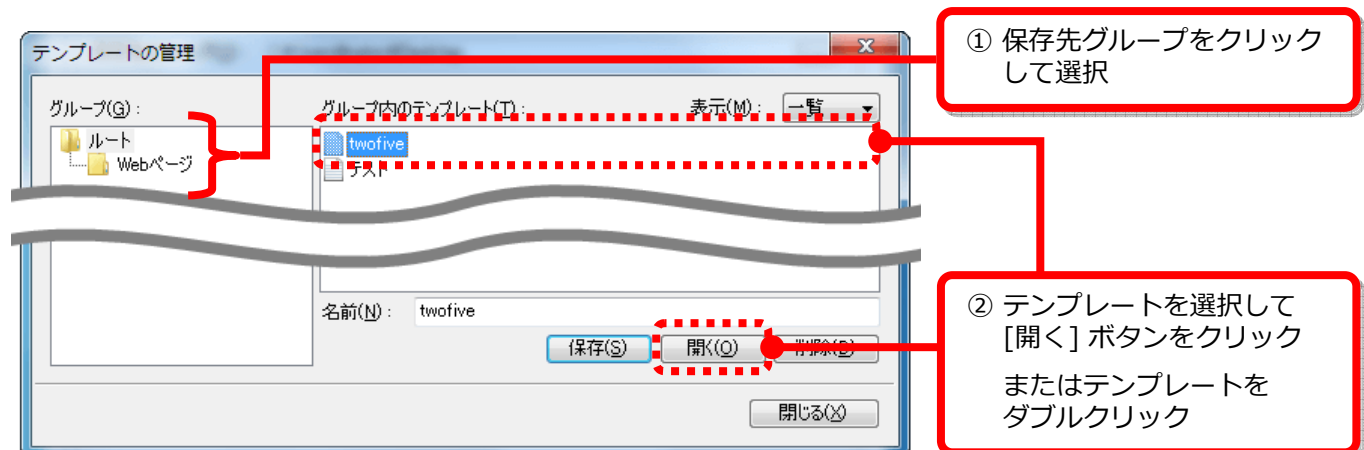


7-1. テンプレート管理画面



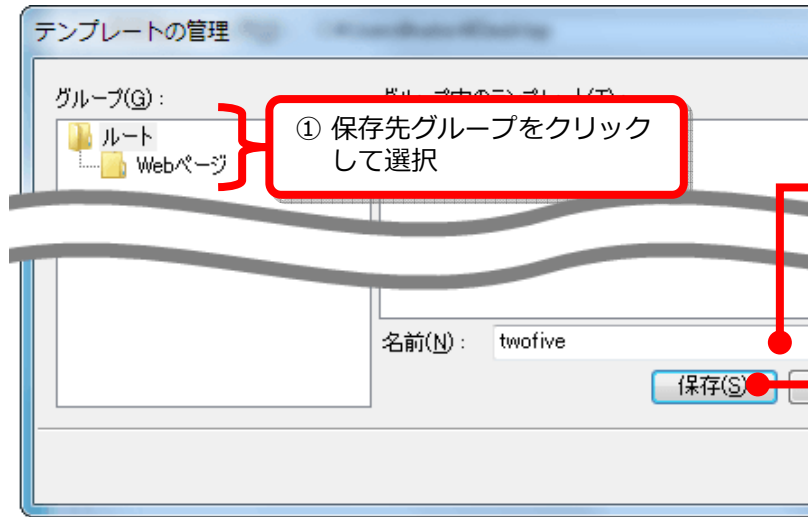
7-2. テンプレートを使用する

テンプレートから設定を呼び出し、ファイル設定画面に展開します。テンプレートを使用するには、以下の操作を行ってください。



7-3. テンプレートを保存する

ファイル設定画面で作成した設定を、テンプレート (雛型) として保存します。
テンプレートを保存するには、以下の操作を行ってください。



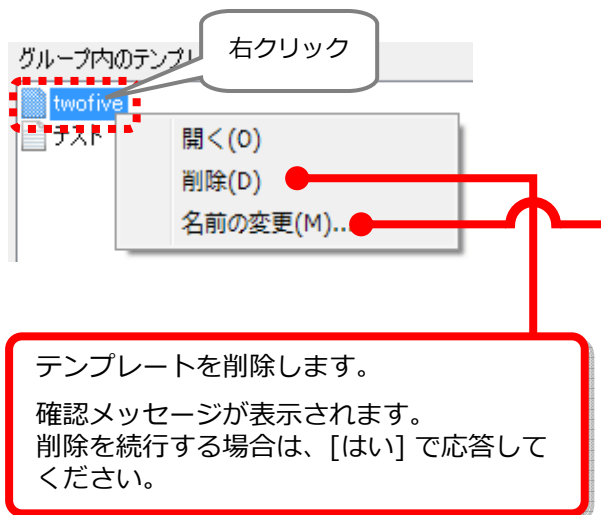
① 保存先グループをクリックして選択

② テンプレート名を入力

③ [保存] ボタンをクリック
保存先グループ内に同名のテンプレートが見つかった場合は、上書き確認メッセージが表示されます。
メッセージに [はい] で応答すると、新しいテンプレートに置換されます。

7-4. テンプレートの名前を変更する/テンプレートを削除する

テンプレート名の変更、並びにテンプレートの削除を行うには、次の操作を行ってください。



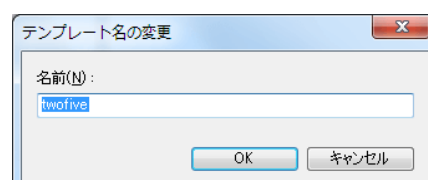
右クリック

削除(D)

名前の変更(M)...

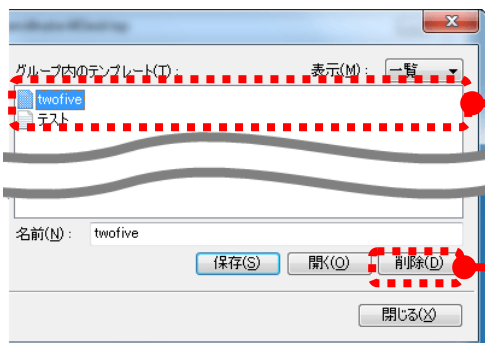
テンプレートを削除します。
確認メッセージが表示されます。
削除を続行する場合は、[はい] で応答してください。

テンプレート名を変更します。
下の画面が表示されます。
新しいテンプレート名を入力して [OK] ボタンをクリックすると、操作を行ったテンプレートの名称が変更されます。



■テンプレートの削除

テンプレートは、次の操作でも削除することができます。



グループ内のテンプレート(D):

twofive

削除(D)

名前(N): twofive

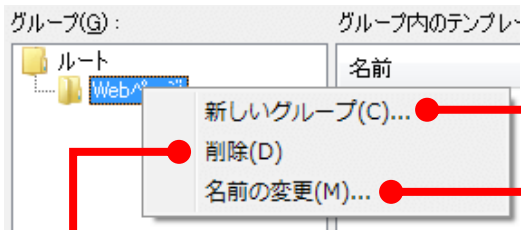
保存(S) 開く(O) 削除(D) 閉じる(C)

テンプレートを選択して [削除] ボタンをクリック。
確認メッセージが表示されます。
削除を続行する場合は、[はい] で応答してください。

7-5. グループを編集する

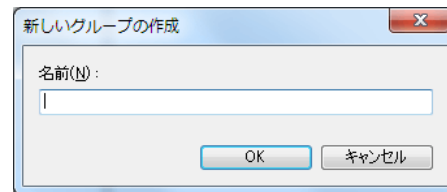
テンプレートは、グループを作って整理することができます。
グループ内に、さらにグループ (サブグループ) を作成することも可能です。

グループを編集するには、グループリスト内の編集対象グループを右クリックしてください。



新しいグループを作成します。

下の画面が表示されます。
追加するグループの名前を入力して [OK] ボタンをクリックすると、操作を行ったグループにサブグループが作成されます。



グループを削除します。(★)

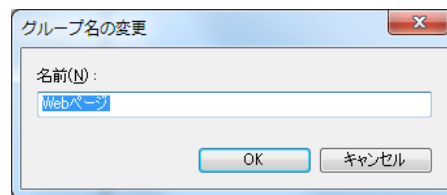
確認メッセージが表示されます。
メッセージに [はい] で応答すると、グループが削除されます。

なお、削除の際、対象グループの内容物 (テンプレート、並びにサブグループと、その中のテンプレート) も、一緒に削除されます。

★「ルート」グループは、名前の変更、並びに削除することはできません。

グループ名を変更します。(★)

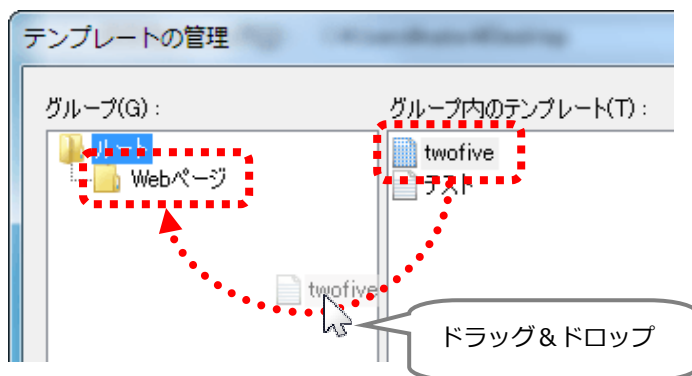
下の画面が表示されます。
新しいグループ名を入力して [OK] ボタンをクリックすると、操作を行ったグループの名称が変更されます。



7-6. テンプレートを移動する

テンプレートを他のグループに移動するには、テンプレートを入れたいグループにドラッグ&ドロップしてください。

移動先のグループ内に、同名のテンプレートが存在する場合は、上書き確認メッセージが表示されます。
メッセージに [はい] で応答すると、移動してきたテンプレートに置換されます。



8. ITF Protector をバージョンアップする

新しいバージョンの ITF Protector が公開されている場合は、設定画面起動時にお知らせします。

設定画面起動時に、お使いの ITF Protector より新しいバージョンが見つかった場合は、下のメッセージが表示されます。

新しいバージョンをインストールするには、メッセージに [はい] で応答してください。

新しいバージョンのセットアップがダウンロードされ、セットアップが自動実行されます。

